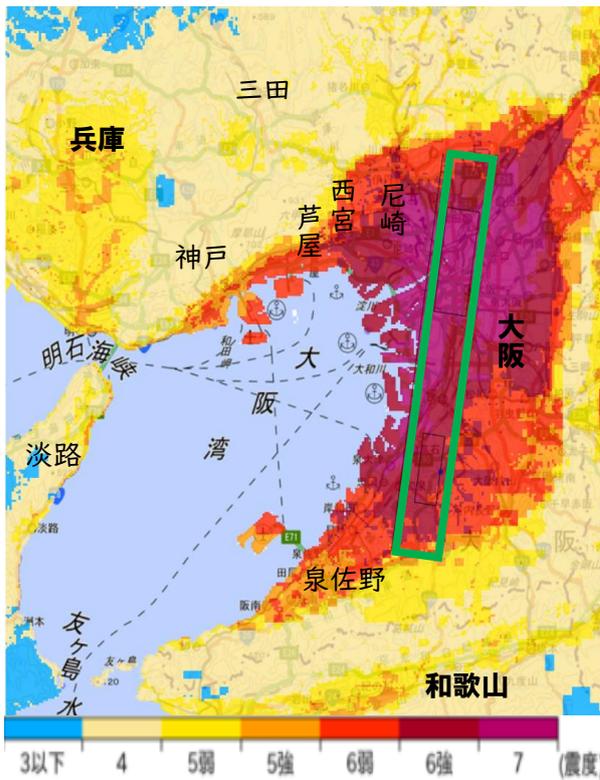


## 地震の揺れの大きさと震源の深さ

6月下旬から続く鹿児島県トカラ列島付近の地震。鹿児島県としまむらあくせきしま十島村悪石島では、6月21日からの震度1以上の揺れが2000回を超えました(7月14日午前11時時点)。7月3日には最大震度6弱を観測したほか、震度5弱、5強の揺れが複数回観測されました。この一連の地震の特徴として、震源が10kmから25kmと浅いことと、地震を観測する「観測点」が近くにあることが挙げられます。これにより、悪石島の震度が大きくなる傾向になっています。同じく内陸型の地震である兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)は、震源が16kmと浅いところで発生し、地震の規模を表すマグニチュードも7.3という規模の大きい地震でした。しかし、地震の規模がどれほど大きくても、震源が100km、200kmと深いと、地表の揺れの規模(震度)は小さくなります。地震の際は震度のほか、マグニチュードの大きさと震源の深さとの関係にも目を向けてみると地震の特徴が分かります。

## 兵庫県に潜む活断層の脅威



【図】上野断層帯がずれた場合の予想震度図

トカラ列島付近の地震が注目されていますが、日本国ではどこでも地震が発生します。地震が発生する要因の一つとして活断層があります。活断層は地震が起こる可能性があり、現在も活動している断層のことを意味します。震災を経験した兵庫県ですが、実はまだ眠っている活断層があります。大阪府にある上町断層帯(緑色枠線)です。左図は、上町断層帯がずれ動いた場合に予想される各地域の震度図です。大阪や尼崎で震度7を、伊丹、西宮、芦屋で震度6強を、神戸は沿岸部の大部分と西区の一部で震度6弱が予想されています。この活断層は、大阪府を中心に甚大な被害が予想されていますが、兵庫県南部でも大きな揺れが予想されています。この断層がずれ動いた場合、マグニチュード7の地震が予想されています。今後30年以内

の発生確率は2.89%と低いですが、油断できない活断層です。南海トラフ地震が危険であることはよく注目されますが、身近に危険な活断層があることが分かります。

各地域に存在している活断層がずれた場合は、大きな被害を引き起こす可能性があります。防災対策を行うことに加えて、政府や関係省庁から発表される情報を収集しましょう。

【参考】防災科研 <https://www.bosai.go.jp/>